

令和5年度第1回学校関係者会議次第

令和5年9月5日(火)

10:30～11:30

- 1 校長あいさつ
- 2 自己紹介
- 3 議題
(1) ICTを用いた教育に対する意見交換
- 4 その他

(資料)

令和5年度学校関係者会議出席者名簿

資料1 令和5年度より導入した情報技術を活用した学習に対する意識調査

資料2 広島県立三次看護専門学校 ICT教育システム利用規程

1 ICTを用いた教育に対する意見交換について

- A委員： 学校外の講師へ何か、講義資料について要望がありますか。
- 当方： 講義資料は、容量が大きいとmetamojiに入らない場合がある。授業で見せる部分と分けて容量を落として頂けるとありがたい。またmetamojiにデータを入れる作業を本校教員が行うため早めに送って頂けるとありがたい。
- A委員： データはPDFに加工しておいたほうがよいか。パワーポイントなどそのままが良いか。
- 当方： PDFでお願いしたい。
- A委員： 来年度改善したいことや県への要望はあるか。
- 当方： 次年度に向けてICT環境の維持するためにもPCの対応年数も5年と聞いているので更新の予算や付属機器の購入にむけての予算を計画的にお願いしたい。
- A委員： トラブルのあったときの対応や人の配置や広島県として何校かでまとめて学校のICT環境を見てくれる人材等があるのか。
- 当方： 情報の専門家が県にもいるので、ヘルプの体制がとれるか声をかけたい。
- B委員： ICT化について大変だが、慣れていくことが大切とわかった。一番の課題はトラブル対応だと思う。学生が課題を提出後、提出できたか不安になって夜中に届いていますかと聞く学生もいる。授業の枠を超えて、ICTとなって楽になる部分とトラブルとして課題となる部分もあると思うので対応していただきたい。
- 当方： この仕組みを立ち上げるにあたって得意な教員とそうでない教員もいるため対策も講じていきたい。時間外の対応もこれからの課題だと思っている。提出期限をはっきり示し、教員の時間外が増えないような体制整備を考えていかなければならない。
- C委員： iPadの書籍が電子書籍になっただけだと思っていたが、本日話を聞いて、大変な努力が必要だと感じた。モデル校からの情報提供はあるのか。
- 当方： 県下7割くらい電子テキストを使用している状況。専門学校によって様々な方法で行われていると思われる。県下の5年一貫校が先進的に行っている為、参考にしながら進めてきた状況である。本校は、大学と違い情報科学の専門の教員もいないため、情報科学の講師からの助言を得ることや広島県のデジタル基盤課に相談して進めてきた。今後どのように学習成果を把握していくのか、何を評価していくのか、教育の設計などの意識改革が必要な現状にある。

情報通信技術を用いて学習効果につなげていくための工夫が必要と考えている。

D 委員： 学生は、授業中手元も見ないといけない、先生の方も見ないといけないと多岐にわたって意識をもつ状況は大変と感じる。

当方： 学生も難しさを感じている者もあり、授業を受ける学生の状況を把握しながら展開方法を考えていくことも課題と考える。

E 委員： 教員も学生も慣れていない中でご苦労されていると思う。困ったときの学生と教員の関係やつながりが課題になると思う。教員が学生の iPad をモニタリングしているのがどのように活かされていくのか、どのように学生と教員が折り合いをつけていくのか、人と人との関係が最終的には大切である。

F 委員： iPad の画面に学んだことを記入することで、知識の理解度がどのくらい落とし込めるのかが今後の課題と感じた。現場では新人看護師がメモの取り方が分からないという者もあり課題となっている。

G 委員： 手探りで頑張って学ばれていると感じた。ネット環境のトラブル対応のシステムがしっかりできていればいいと感じた。

令和5年度より導入した 情報技術を活用した学習 に対する意識調査

令和5年度 第1回学校関係者会議
広島県立三次看護専門学校

令和5年度より導入した、情報技術を活用した教育の概要

- 導入に当たって、本校でのICT活用能力を獲得した育てたい学生像を設定し、その運営ルールとしてICT教育システム利用規定を定めた。
- 具体的には、学生・教員は1人1台iPadを所持し、MetaMoji Class Room（学習支援ソフト）を利用して、電子データの保存・授業資料の配布・レポートの提出等を行っている。MetaMojiには、授業中学生が書き込んだ授業資料をモニターできる機能やグループ学習を行うことも可能である。
- テキストは原則電子書籍とした。
- 学生は、電子テキストやPDF化された授業資料にiPad上で直接書き込むことができる。
- 学習コンテンツとして、看護師国家試験対策WEB、eナーストレーナーの利用を可能とした。どの場所においても、すき間時間にも、主体的に学習ができる環境とした。

3

はじめに

- 第5次カリキュラム改正では情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を育成することが求められた。このことから本校では令和5年度入学生から、情報技術を活用した学習を導入した。
- 導入5か月が経過し、学生の学習状況及び教員の教授—学習の支援状況についての現状と課題を知り今後の教育活動に反映させる目的で、意識調査を行った。
- 対象は学習を導入した1年生の学生と専任教員である。学生に対しては、基本操作の習得状況と学習状況、使用の際の心構えについて調査した。
- 専任教員には、基本操作の習得状況と授業の方法や留意点などを調査した。
- この調査からの現状をまとめ、課題を報告する。

2

育てたい学生像

- 基礎目標 1 ICTを活用するための基礎が習得できる
- デバイスの基本的操作、検索、情報の受信・発信ができる
 - 情報通信に関する倫理観・マナーがある
- 基礎目標 2 電子媒体を使った学習方法の習得ができる
- 電子書籍の閲覧と検索
 - 電子書籍を使った、下線・重要箇所の表示、ノートづくり
 - プレゼンテーションが行える
 - 一般的な・看護系の文献の検索ができる

実践での目標

- 1 科学技術の進歩に基づいた情報活用ができる
- 2 対象の情報活用能力に合わせた看護実践ができる
- 3 情報活用能力を基盤とした看護専門職としての生涯学習が行える
- 4 看護専門職として、多職種連携・協働できるための情報活用ができる

4

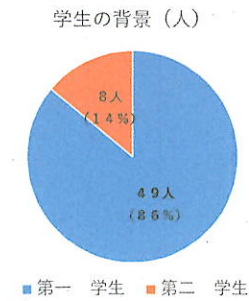
調査の目的・方法

- 1 調査目的 令和5年度より「情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力」を育成するため、情報技術を活用した授業を開始したことによる、導入5か月時点での利用者の認識及び技術の実状を知る。
- 2 調査対象 本校第一及び第二看護学科1年生75名及び専任教員23名
- 3 調査期間 令和5年8月10日～令和5年8月17日
- 4 調査方法 Microsoft FormsでWEB上に調査票を作成。この調査票のアドレスが読み取れるQRコードを対象者に配布し、QRコードを端末で読み取ったうえで、回答を依頼。調査の回答をもって、調査の同意を得たこととした。調査内容では、個人が特定されないように配慮した。
- 5 集計方法 集計結果は、4段階で質問したものは4点満点で点数化し、Microsoft Excelで量的（単純集計）及び一部質的に集計を行った。

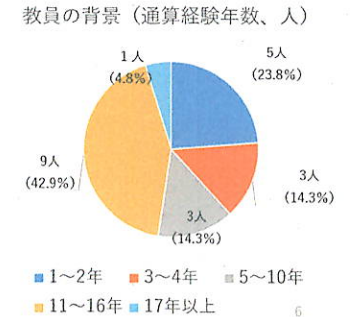
5

調査結果 1 属性

A 学生
回答が得られた57名
(回答率76%)



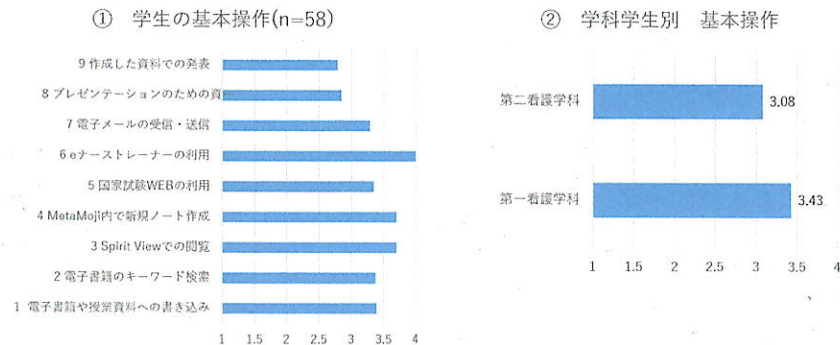
B 教員
回答が得られた21名
(回答率91.3%)



6

A 学生に対する調査結果

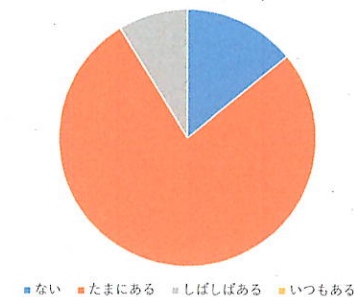
1 端末等の基本操作の自己評価（4点満点）



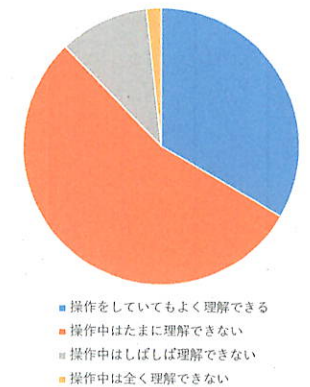
7

2 学生の学習状況（1）

① 教員の指示や授業の進み具合に合わせた書き込みや引線に遅れはないか？（人）



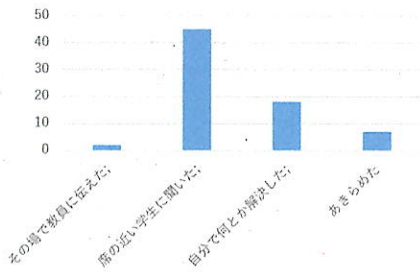
② iPad操作中の授業の理解度（人）



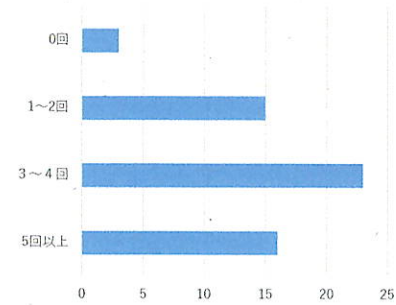
8

2 学生の学習状況 (2)

③ 授業中に困った時の対処方法
(複数回答、人)



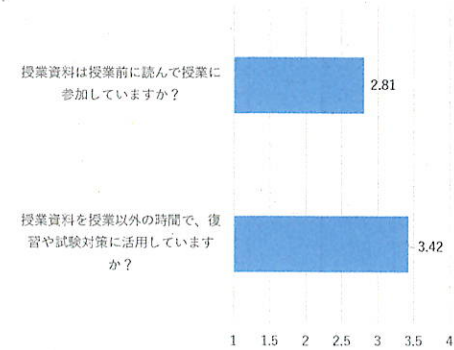
④ iPad上でのグループ学習
の経験 (回数、人)



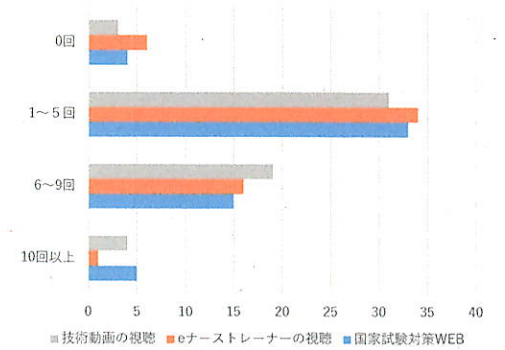
9

2 学生の学習状況 (3)

⑤ 授業資料の活用度 (4点満点)



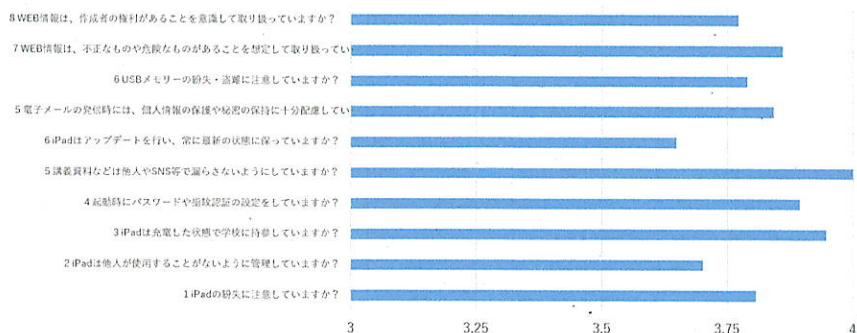
⑥ 学習コンテンツの利用回数 (人)



10

3 学生の学習に対する心構え

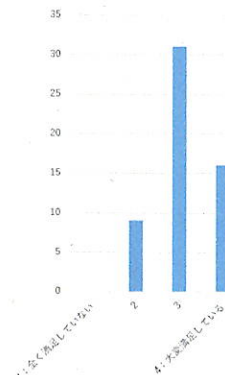
ICTを用いた学習に対する心構え
(4点満点)



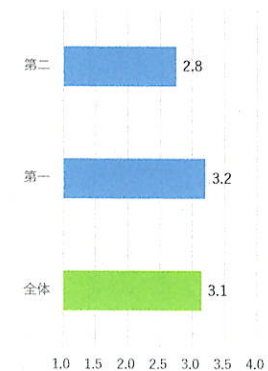
11

4 学生の満足度

① 学生の満足度
(度数別、人)



② 学生の満足度
(4点満点中平均)



【気に入っている点】

- ・荷物が少ない、重くない
- ・検索したい情報が容易に得られる
- ・いつでもどこでも学習できる
- ・忘れ物がない
- ・電子テキスト内の図や表の貼り付けができる
- ・動画が簡単に視聴できる
- ・先生が授業で言っていることを打ちこめる

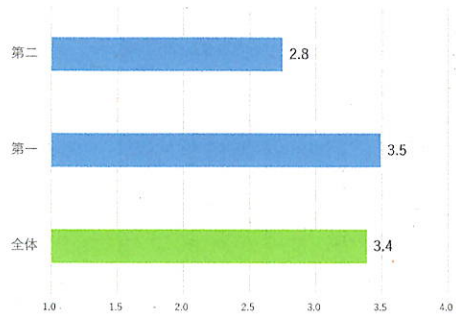
【学習の課題や困難さ】

- ・文字入力に手間どり授業内容を聞き逃す
- ・資料表示のレイアウトが難しい
- ・目の疲労感
- ・知識の定着が遅い 記憶の定着が遅い
- ・紙媒体に書き込みたい
- ・画面の書き込みが難しい
- ・記憶の定着が遅い
- ・操作に不慣れ (手間取る)

12

5 今後学習が継続していけそうか？

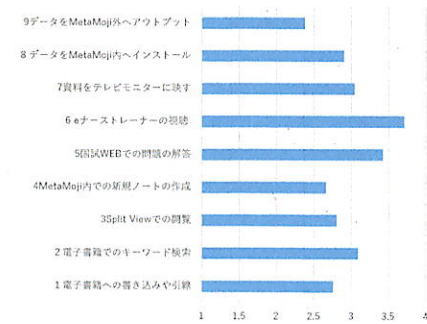
学習が継続していけそうか？
(4点満点)



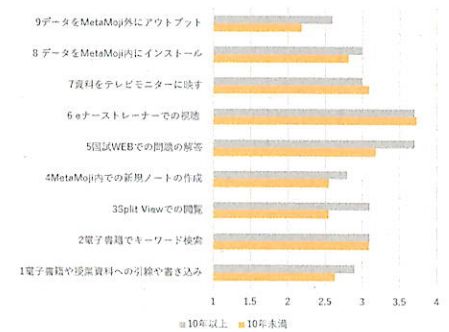
- ・ 難しいと感じる点はあるけど、それ以上にメリットが大きいし、使いやすいから。
- ・ 分かりやすいから
- ・ 友達と一緒に勉強するのにiPad一台でできるから
- ・ iPadとノート両方を使い分けて自分なりの勉強方法があるから
- ・ 時々詰まる時があるが、十分着いていけると思うから
- ・ 時々書き込めない時はあるけどなんとかかなと思うから。
- ・ なんとかやってくれたから。
- ・ 継続していく選択しかないと考えたから。
- ・ 続けるしかないから。
- ・ iPadの学習はとても便利だが、たまにストレスに感じることがある
- ・ iPadだけで勉強を済ませるのではなくiPadを活用しながら自分の勉強スタイルを見つけていければいいかなと思ったから。

B 教員に対する調査結果 1 端末等の基本操作の自己評価

① 基本操作に関する自信度
(4点満点)

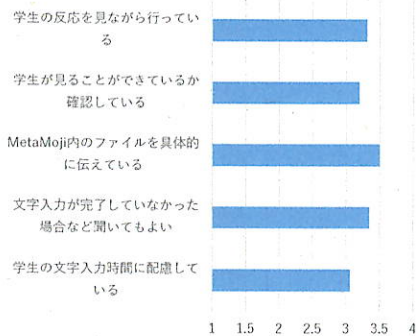


② 教員経年別基本操作の自信度
(4点満点)

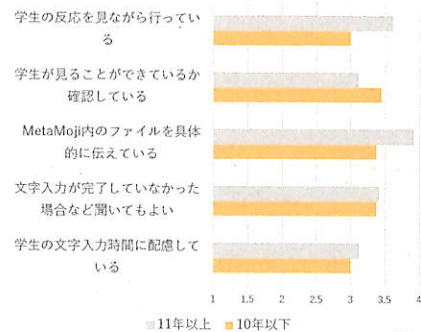


2 授業中の学生への配慮

① 授業中の学生への配慮 (4点満点)

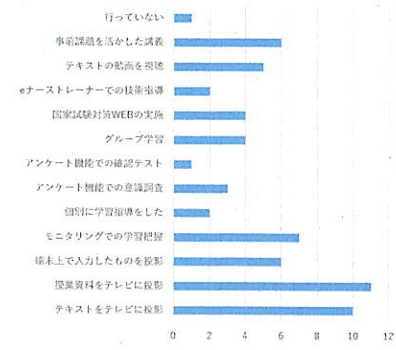


② 経年別 授業中の学生への配慮
(4点満点)

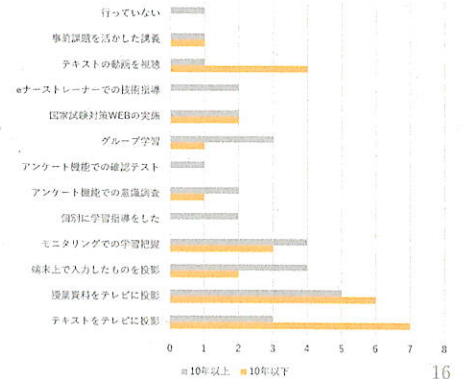


3 情報機器を用いて実施したこと

① 実施した技法 n=16、人数

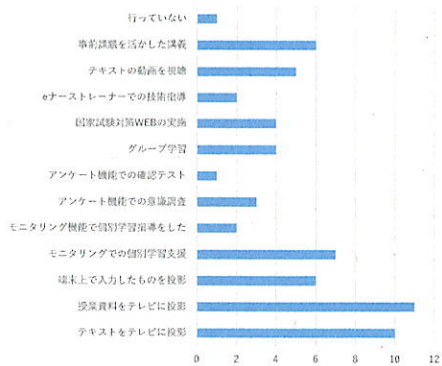


② 経験年数別 実施した技法
10年以下7名、11年以上9名 (複数回答、人)



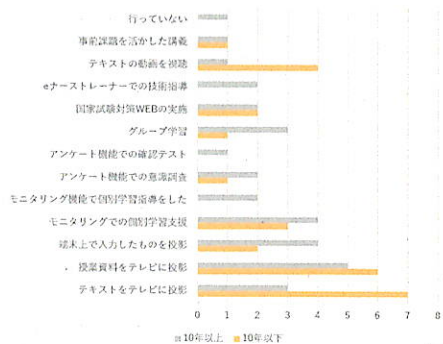
3 情報機器を用いて実施したこと

① 実施した技法 n=16、人



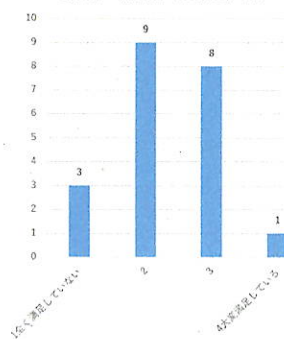
② 経験年数別 実施した技法

10年以下7名、11年以上9名（複数回答、人）



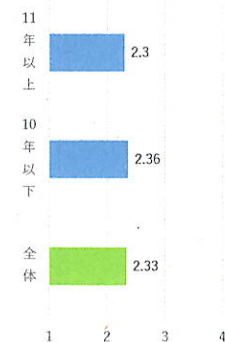
4 教員の情報技術を導入しての満足度

① 教員の満足度 (度数別、人)

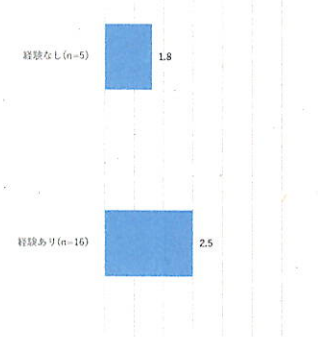


② 教員の満足度 (4点満点中の平均)

(4点満点中の平均)

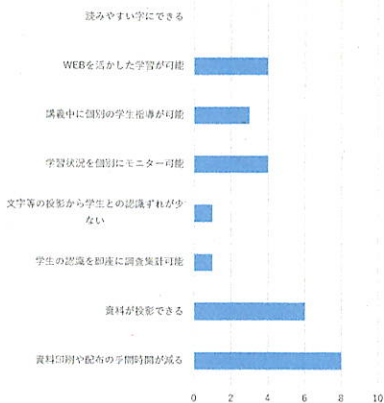


③ 授業経験別満足度 (人)

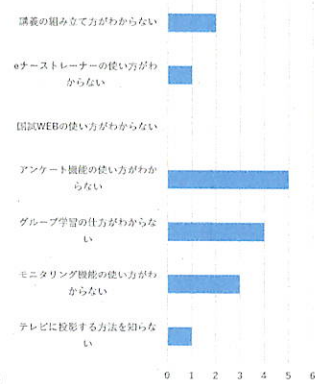


5 教員の満足度の理由

① 満足度が高い理由 (複数回答、人)



② 満足度が低い理由 (複数回答、人)

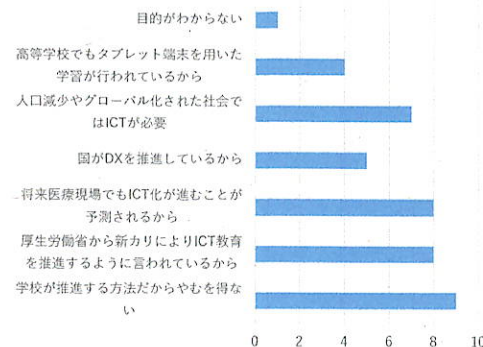


③ 自由記載

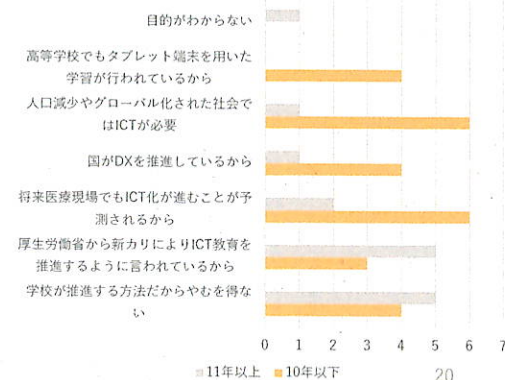
・満足するほどの実感はない。
 ・全ての科目とは言わないが、知識修得に効果的なのか疑問。自分自身が学習者としてこの方法では内容が記憶に残らない。
 ・特に利点を感じない。むしろ手間がかかる。
 ・模擬電子カルテの活用など、教育内容にICTを取り入れることが必要であると考える。

6 情報技術を用いた学習を導入した目的の認識

① 導入目的の認識 (全体、人)

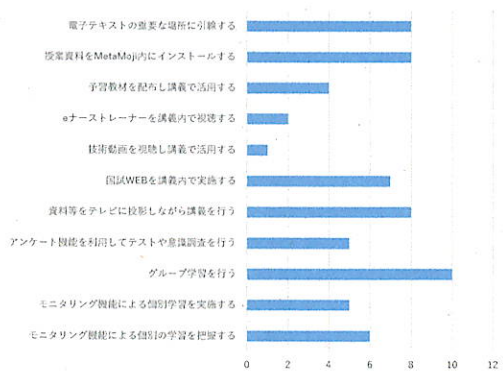


② 経年別 導入目的の認識 (人)



7 今年度のICT教育技法の目標

① 教育技法に対する目標（全体）（人）



② 教育技法に対する目標（年代別）（人）

